

「課題名：広島大学病院における薬物依存のあるHIV陽性者への
薬物再乱用防止プログラム導入状況の検討」について

○ 研究の意義・目的

HIVの治療では、定期的な服薬と受診が大変重要です。しかし、薬物依存症により、服薬や受診が十分にできなくなる患者さんもおられます。薬物依存症は、進行性の病気であり、薬物を止めたいと思っても止めることができず、心と体に悪影響が及びます。薬物依存症は、回復のための支援が必要な病気なのです。しかし、HIV感染症と薬物依存症を併せ持つ患者さんの場合は、一般の薬物依存症回復支援機関に通うことに抵抗感を持つ方もおられます。本院のHIV医療チームでは、臨床心理士による薬物再乱用防止プログラムを個別に実施できる体制をとっています。薬物再乱用防止プログラムの提案に対する患者さんの同意状況や拒否理由、実際の実施状況を検討することにより、HIV感染症と薬物依存症を併せ持つ患者さんへの支援を行う上での注意点と課題を明らかにし、よりよい支援につなげるため、この研究を計画しました。

○ 研究対象者

2014年11月から2017年3月末までに、広島大学病院血液内科外来受診歴のあるHIV陽性患者さんで、薬物依存の問題が明らかになっている方を対象とします。

○ 研究方法

本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。

カルテから転記する内容は年齢、性別、薬物乱用に関する記載、薬物再乱用防止プログラムに関する記載、薬物依存症の治療歴に関する記載、精神状態に関する記載、心理社会的な問題に関する記載です。

（個人が特定出来る情報は転記しません）

○ 研究期間（委員会承認後）～ 2018年3月31日（解析期間等含む）

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

.....
お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5351

広島大学病院エイズ医療対策室 准教授 藤井輝久（研究責任者・情報の管理責任者）

契約病院専門職員 喜花伸子（研究担当者）